

プレスリリース

水稻栽培をJ-クレジット創出につなげる本市初の取り組み

「八幡平市中干しプロジェクト」を始動します

脱炭素の推進と農業者の収入につなげる取り組みです

【発表の要旨】

株式会社バイウィル(本社:東京都中央区、代表取締役社長:下村 雄一郎)と八幡平市は2023年8月22日にカーボンニュートラルおよびサーキュラーエコノミー(循環経済)の推進に向けた連携協定を締結し、J-クレジット(*1)創出に向けて調査・検証を進めてきました。

今回、米の生産が盛んな当市の地域特性を生かし、市の主導により「水稻栽培における中干し期間延長」によるJ-クレジット創出に着手することとして、地域の農家が参加するプログラム型プロジェクト(*2)「八幡平市中干しプロジェクト」を立ち上げます。

プロジェクトでは、水稻栽培を行う農家が、水田の水管理の一環として従来から行ってきた「中干し」(*3)の期間を、この取り組みにより「7日程度」延長します。

プロジェクトにかかる手続きは株式会社バイウィルが受託・代行し、さらに、株式会社バイウィルと業務提携している株式会社岩手銀行(本社:岩手県盛岡市、代表取締役頭取:岩山徹)が会員募集の支援を行います。

このことにより農家は負担なくJ-クレジット販売による副収入を得られるほか、生産する米については「環境に優しい米」という付加価値を得ることができます。

※1 J-クレジットとは

省エネ設備の導入や再生エネルギーの活用等、事業者による脱炭素活動により得られたCO₂等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証したもの。発行されたクレジットは他の企業等に売却することができ、購入者はカーボン・オフセットに活用することができる。

※2 プログラム型プロジェクトとは

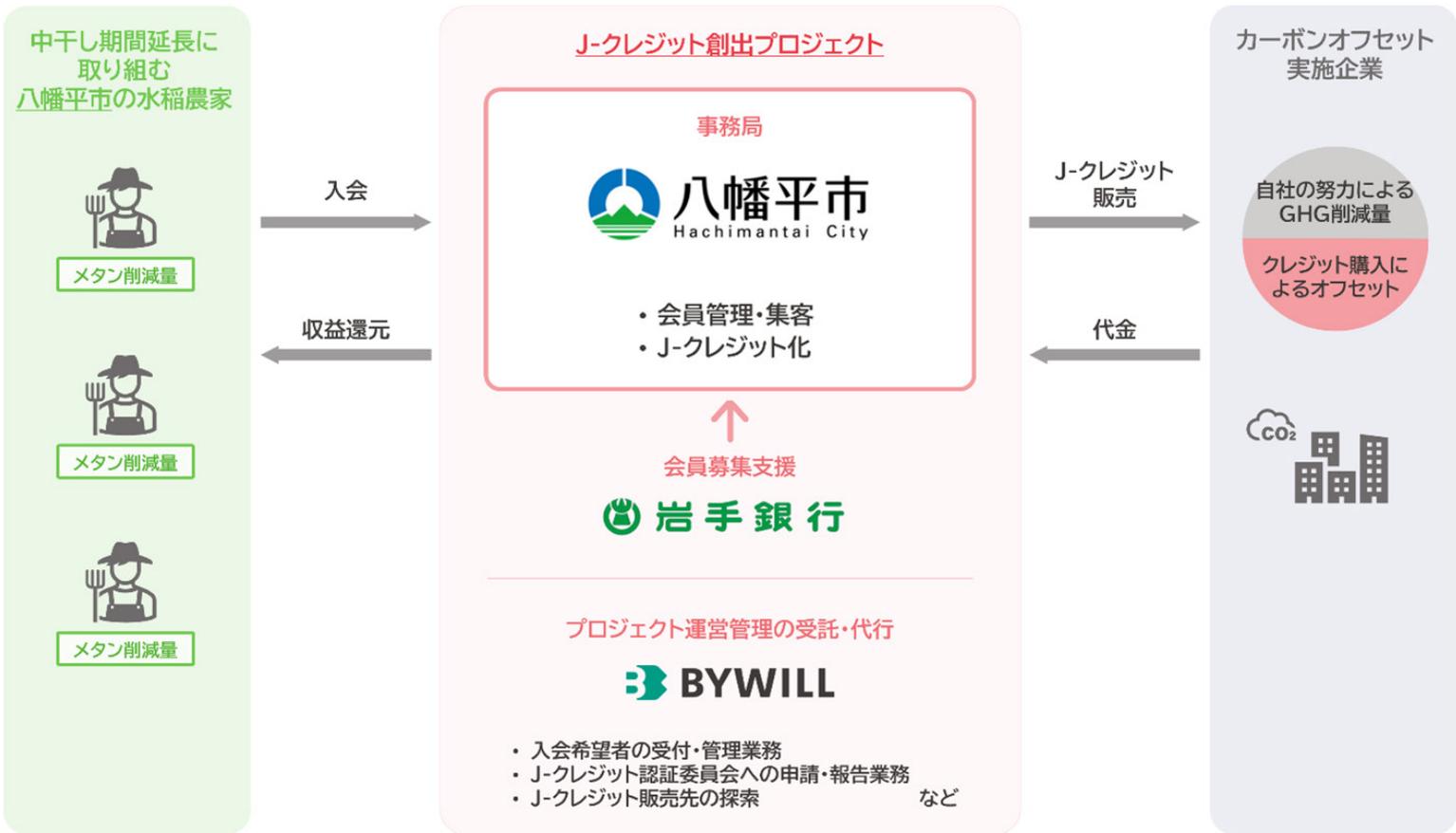
複数のCO₂削減・吸収活動を取りまとめ、1つのJ-クレジット創出プロジェクトとして登録する形態のこと。単独ではプロジェクト登録が非現実的な小規模の削減活動も、取りまとめることでJ-クレジットを創出することが可能となる。

- 1 実施主体** 八幡平市
- 2 業務委託先** 株式会社バイウィル 代表取締役社長 下村 雄一郎
(東京都中央区日本橋 2-3-21 群馬ビル 6階)
- 3 募集時期** 農家への募集は、10月下旬を目途に開始予定



詳しくはこちら
(市ウェブサイト)

4 事業イメージ



※3 中干しとは

水稻栽培で、7月下旬からお盆前まで、水田の土壌内水分を減少させるために、田から水を引き、田を乾かす、水管理の技術です。

- ▶土を干して固くすることによって、秋の刈り取り時の作業性を改善
- ▶土中に酸素を供給でき、根腐れ防止や根の活力を高める
- ▶過剰な分けつ（根元付近からの枝分かれ）を防止し、成長を制御
- ▶土中のメタンガスなどの発生を抑える



中干し期間の延長により

「中干し」の実施期間を従来よりも延長することで、土壌からのメタン(温室効果ガスの一種)排出量を抑制することができ、J-クレジットの創出方法として認められています。

▶本市と(株)バイウィルは、2023(令和5)年8月22日、脱炭素の推進に向けた連携協定を締結しています。

▶本市と(株)バイウィルは、J-クレジットをはじめとする環境価値を活用して、市の「2050年ゼロカーボンシティ」実現を目指します。

【担当】

農林課

課長補佐 高橋 潤

電話 0195-74-2111(内線 1331)